

愛郷
無限

土屋館
どや
だて 通信

発行者：大曲・花火通り商店街
文責：辻

お問い合わせ：080-1265-7035
tuck-t@akita-tsujiya.jp

2013年10月14日号 NO.418

写真提供：大山市

Subject：訓書滋身 人間にとって成熟とは何か

曾野綾子さんの新刊が素晴らしい！

ここしばらく精力的に出版を重ねられている曾野さんですが、この夏に発売された本が開眼の思いです。皆さまにもぜひ読んでいただきたいです。

小生はこのドヤツーの中で、よく悲しくなったり、怒ったり、イライラしたり、大喜びしたり、理想を熱く語ったりしていますが、四十半ばとなり人生半分を過ぎてなお、まだまだ成熟していないな～～と反省する日々です。

理想と志は高く持ち続けなきゃ！ しかし現実に色んな人がいて、様々な価値観が交錯して、ストレートな思いだけでは伝わらないし、逆に真価も問にくい。

一本柱で「これだけ」貫いていけば！という時代ではないのですよね。

五木寛之さんの大河の一滴の中に記されていた、古代中国の理想家肌で有能な政治家・屈原（くつげん）と地元の漁師の会話を思い出します。

滄浪（そうろう＝中国の大河）の水が清らかに澄んだときは
自分の冠（かんむり）のひもを洗えばよい

もし滄浪の水が濁ったときは自分の足を洗えばよい

その時々の上々で、上手に生きなきゃいけないよ、と漁師に諭される屈原。でも最後には志半ばに絶望し、滄浪へ身を投げてしまいます。「酸いも甘いも噛み分ける」と良く言いますが、そんな年寄りになりたいものだな～～と思わされる本です。

幻冬舎新書 【人間にとって成熟とは何か】

曾野綾子著 760円+税

I S B N : 978-4-344-98312-0

帯に書かれている短文からも伝わります。

【もっと尊敬されたい】この思いが自分も他人も不幸にする。

「憎む相手からも人は学べる」

「諦めることも一つの成熟」

「礼を言ってもらいたいくらいなら何もしてやらない」

「他人を理解することはできない」

「人間の心は矛盾を持つ」

「正しいことだけをして生きることはできない」

学校では教えてくれないこと。でも生きていくためにもとっても大事なことですよね。